Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Plasma TNF-α level before treatment predict subsequent remission in patients with depression treated with duloxetine.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鈴木, 枝里子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31553

様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	甲 第 633 号	氏　　名	鈴木　枝里子

審　査　委　員　会	主　査　教　授	石郷岡　純

論文審査の要旨（400 字以内）

うつ病における炎症仮説が注目されている。本研究は、血漿 interleukin-6 (IL-6)や tumor necrosis factor-alpha (TNF-α)が、セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬（SNRI）である抗うつ薬デュロキセチンによる寛解発生の予測因子となりえるか否かを検討したものである。解析対象は大うつ病性障害の診断基準を満たし、MDRS 得点 20 点以上である 18 歳以上の男女 66 名である。結果、単変量解析では、治療前の血漿 TNF-α 値（低値であること）、性別（男性であること）、年齢（高齢であること）が寛解と有意な相関を示した。次にこれらを説明変数として行った多変量解析でもこの 3 因子が有意な相関を示していた。

今回はじめて SNRI でも寛解の予測因子となることが示せた。また、性差、年齢に関しても過去の報告を追認する結果が得られた。本研究は免疫学的見地からうつ病の反応予測因子を見出したという点で画期的であり、学位授与にふさわしいと考えられた。

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）[学校教育法学位規則第 8 条]